

朝鮮の市場經濟



朝鮮の市場經濟 定價 14,000 원

1986年 1月 5日 影印

1986年 2月 4日 發行

編者 朝鮮總督府

發行人 金容俊

發行處 圖書民族文化

釜山直轄市 南區 大淵 6洞 1766-27號

登錄日字 1982年 11月 4日

登錄番號 第카 7-38號

電話 ㉞ 0223~0224番

頒布處：圖書民族文化

釜山市 南區 大淵 6洞 1766-27號

電話 ㉞ 0223~0224番

朝鮮の市場經濟

目次

第一章	市場の沿革	三頁
第一節	市場の概念	三
第二節	市場の起源	七
第三節	市廛と市場	二
第二章	市場の分布	二
第一節	百餘年前の市場	二
第二節	李太王時代の市場	八
第三節	最近の市場	一〇八
第三章	市場の取引	一七五

第一節	韓國時代の市場	一七六
-----	---------	-----

第二節	土地調査當時の市場	一八六
-----	-----------	-----

第三節	市場の現状	二一八
-----	-------	-----

第四節	市場取引の消長	二三六
-----	---------	-----

第四章	市場行政	二五一
-----	------	-----

第一節	市場の監督	二五一
-----	-------	-----

第二節	市場の取締	二六四
-----	-------	-----

第三節	市場税の徴収	二七一
-----	--------	-----

第五章	市場商人	二七七
-----	------	-----

第一節	旅閣・客主・酒幕	二七七
-----	----------	-----

第二節	市場行商	二八〇
-----	------	-----

第三節	市場金貸	二九五
-----	------	-----

第六章 主要市場

第一節 大市場の變遷

第二節 都市の公設市場

第七章 家畜市場

第一節 家畜市場の現勢

第二節 家畜取引狀況

第八章 魚市場

第一節 魚市場の取引

第二節 京城府營水產市場

第九章 藥令市

第一節 藥令市の發達

目次

三

이제까지
25년 2월 21일까지

第二節	大邱藥業組合	三六二
-----	--------	-----

第十章	現物市場	三六九
-----	------	-----

第一節	穀物市場	三九〇
-----	------	-----

第二節	證券市場	四二九
-----	------	-----

結論		四五三
----	--	-----

外篇		四五九
----	--	-----

内地の市		四五九
------	--	-----

支那の市		四九七
------	--	-----

附關 東州の市場

朝鮮の市場經濟

三八

西門內場

十

大橋場

邑西十里東面

三八

予美場

邑北三十里二道面

一

予美場

邑北三十里一道面

六

大蝦、烏賊魚、小蛤、枳實

新

昌邑內場

二七

仙掌場

邑西十里大西面

四九

黃石魚、紅柿、藥艾

平

薪舊鎮場

鎮南二十里大山面

五十一

石花、鱈魚、石魚、絡締、小蛤、鹽

湖

南

全

州府內大場

二

南門外場

七

西門外小場

四

北門外場

九

鞋、魚鹽、牛犢

東門外場

一六

鳳翔場

府東北三十里鳳翔面

五十

參禮場

府西北三十里五百條面

三八

仁川場

府東北百里陽良所面

二七

石佛場

府西六十里東一面

一六

上牙場

府北七十里南二面

三八

北通燕貨東輸倭產商旅湊集百物殷盛號爲國中鉅布 米荳、薺麥、黍、粟、綿布、綿花、苧布、綬紬、繭絲、麻布、生麻、鑰器、土器、磁器、銅鐵器、木物、竹物、紙地、茵席、煙草、煙杯、眞梳、薑、蒜、棗、栗、梨、柿、木履、麻鞋、魚鹽、牛犢

忠清道

第二章 市場の分布

清風邑	青山酒城	同要路院	牙山邑	陰城邑	同馬老	同館基	同元岩	報恩邑	同板橋	同鍾川	庇仁邑	同無極	同牛目	同龍安	同可興	同大召院	同內倉	同南倉	同新塘	忠州邑	鴻山粟峙
一・六	二・七	五・十	四・九	二・七	四・九	一・六	二・七	五・十	五・十	一・六	三・八	五・十	一・六	三・八	五・十	五・十	三・八	四・九	三・八	二・四・七・九	五・十

全羅道

忠清道

錦山邑	礪山邑	同院基	同禾橋	同才南	同嚴木	金堤邑	同伊城	同利城	同沃野	同參禮	同仁川	同所陽	同峰上	同府東	同府北	同府西	同府南	全州府	同任懸	永春邑	同寬浦	丹陽邑	同安陰	清風山水
二・七	一・六	一・六	五・十	三・八	五・十	二・七	一・六	一・六	四・九	三・八	二・七	一・六	五・十	各三回開市ス	兩市ハ府北ハ四ノ日府東ハ九ノ日	兩市ハ府南ハ二ノ日府西ハ七ノ日	兩市ハ府南ハ二ノ日府西ハ七ノ日	一・六	四・九	三・八	五・十	三・八	三・八	三・八
												邑誌ハ三八ト作ル	邑誌ニハ陽井浦ト作ル											邑誌ハ四・九ト作ル

[illegible]

朝鮮の市場經濟

道 北 羅 全

井邑市場 同 同

一五、〇〇〇
坪設備なし。

穀物、木材、薪炭、牛馬、魚介類、織物、金物、竹細工、品、雜貨、紙、油、陶磁器等

一九八、五九四

五、〇〇〇 六四〇

井邑郡井邑、内藏、所聲、古阜、德川、北の各面、淳昌、全州、扶安、金堤、高敞、各郡の市場、廻商人等を出店者とし前記各面七寶各面及淳昌郡長城郡の一部農民の買出に來る者多し。

大部分は小賣取引にして、少引は行はれず

商品は賣上の百頭十錢なり。

全州市場 同 二、七日

常設店鋪一〇〇坪、定めざるもの常設店鋪二〇坪、魚菜店鋪三〇坪の設置を施せり。

穀物、魚類、果實、蘆蓆、鹽、牛、其他物、其他織

四〇、二〇〇

一、三三三 三、〇〇〇

五六里以内より生産物を持來り賣上金にて他のものを買取り歸す。につくを例とす。

海産物には卸取引行はるも近時市場附近に該問屋業者漸増の傾あり。從て卸取引は減少の途を辿りつゝあり。大部分は小賣とし、見本取引なし。

畜牛一頭五十錢、犢三十錢、穀類は一畝毎に五升に満たざる端數を報酬とし、其位は賣上の五分

群山市公設市場 同 晦日を除き毎日

五、七二五坪敷地は大正七年に市場移轉と年市場の買収に使用期間を定め、常設店鋪一〇〇坪、定めざるもの常設店鋪二〇坪、魚菜店鋪三〇坪の設置を施せり。

農産物、水産物、雜貨等

四、四七七

二、〇〇〇 五〇〇

府内住民

同

なし

群山市公設市場 一、五日

一、三〇〇坪屋九坪、木造葺平

農産物、水産物、雜貨等

四、三九〇 不

二里以内より來場する者多く、稀には五、六里位より來る者もあす。現金にて賣買す。顧客を待ちし商品は陳列しなし

道別 (昭和元年)

道別	市場數	開市回數	賣					買					合
			農產物	水產物	織物	畜類	其他	農產物	水產物	織物	畜類	其他	
京畿道	公設	九三	一、〇三七、一六五	三九、八三三	五一九、六一五	五、一五二、一四二	一、五三四、二〇〇	八、五七二、九五四					
	私設	八	三、九七六、三三八	二、〇六七、九三五	七二、三三〇	—	一、七三六、八〇〇	七、八四三、三九三					
	計	一〇一	五、〇一三、五〇三	二、三九七、七六七	五九一、九三五	五、一五二、一四二	三、二六一、〇〇〇	一六、四一六、三四七					
忠清北道	公設	五四	一、一七三、二四五	三五二、一三八	七五〇、二八六	一、四二六、二八九	六九三、三四八	四、三九四、三〇六					
	私設	—	—	—	—	—	—	—					
	計	五四	一、一七三、二四五	三五二、一三八	七五〇、二八六	一、四二六、二八九	六九三、三四八	四、三九四、三〇六					
忠清南道	公設	八二	二、一六一、六八五	一、〇一八、四三七	三、一七九、五四八	二、〇〇二、五二三	二、八八六、〇八三	一、二八四、二六六					
	私設	四	一五九、六四一	三二二、三八六	二五二、〇〇〇	二〇二、八六六	一五八、〇〇〇	一、〇八四、八九三					
	計	八六	二、三二一、三二六	一、三三〇、八二三	三、四三一、五四八	二、二〇五、三七九	三、〇四四、〇八三	一、二三三、一五九					
全羅北道	公設	六八	一、四三七、一三七	九三四、四一八	六二〇、九二八	一、三五六、七六五	一、七六六、七七	六、〇五五、九七五					
	私設	—	—	—	—	—	—	—					
	計	六八	一、四三七、一三七	九三四、四一八	六二〇、九二八	一、三五六、七六五	一、七六六、七七	六、〇五五、九七五					
全羅南道	公設	二一〇	一、三三二、一八五	一、一四四、七一九	一、二六六、二九六	二、二九七、五二八	二、一四二、六七八	八、一二三、三九六					
	私設	三	—	四三九、六三三	—	—	—	四三九、六三三					
	計	二一三	一、三三二、一八五	一、五八四、三三二	一、二六六、二九六	二、二九七、五二八	二、一四二、六七八	八、五六三、〇二九					

朝鮮の市場經濟

忠清南道	四	一一、六四一	三七、六九七	—	—	—	二四四	三九、三三八
全羅北道	一	—	二七、二七七	—	—	—	—	二七、二七七
全羅南道	三	—	四三九、六三三	—	—	—	—	四三九、六三三
慶尙北道	一	一六、八二八	一九八、九八七	—	—	—	二九、五四五	二四九、三三〇
慶尙南道	二	五五九、六四四	五、五八、二〇七	—	—	—	一、三九五	六、一九、二四六
黃海道	一	—	二四、〇〇〇	—	—	—	—	二四、〇〇〇
平安南道	三	—	五三〇、五八七	—	—	—	—	五三〇、五八七
平安北道	三	—	三〇八、〇三六	—	—	—	—	三〇八、〇三六
江原道	—	—	—	—	—	—	—	—
咸鏡南道	五	三、八〇二	四四九、一三三	四、八八〇	二五、八三二	二、三八二	四八六、〇二七	一箇所休市
咸鏡北道	一	—	三四五、〇九四	—	—	—	—	三四五、〇九四
總計	四〇	一一、九二、九〇五	九、八二、三六五	四、八八〇	二五、八三二	三三、三三二	一一、三九七、三〇三	—

これ等市場を分つて南鮮、北鮮、表朝鮮、裏朝鮮、南部、中部、西北部に分類して見れば南鮮は北鮮に比し、表朝鮮は裏朝鮮に比し、南部は北部に比し市場の分布が極めて濃密にしてその取引が著しく發達して居る。

地域別市場分布及取引高



全 州 市 場



全 州 市 場

全羅北道

論山 郡內、益山、扶餘、大田
 江景 同前
 鳥致 京城、仁川、大邱、金泉、天安、論山、清州、公州、忠州
 洪州 洪城郡一圓、青陽、禮山、瑞山、保寧
 禮山 忠清南道各地方、忠清北道一部
 天安 鎮川、平澤、牙山
 成歡 郡內、牙山、平澤

群山 全羅北道、忠清南道各地方
 全州 忠清北道、全羅南道一部

南原 淳昌、任實、長水、求禮、咸陽、谷城、河東、順天、光陽、全州、金堤

金堤 扶安、古阜、新泰仁、裡里、全州

裡里 益山、金堤、全州、沃溝

井邑 邑內、蓮池里、上坪里、科橋里

扶安 井堂、群山、木浦、潭陽、全州、長城、高敞、扶安邑

全羅南道

大田、公州、扶餘、裡里、京城、釜山
 同前
 京城、仁川、大邱、金泉、天安、論山、清州、公州、忠州
 禮山、天安、青陽、保寧、瑞山、唐津、牙山
 忠清南道、京畿道、慶尙南道、全羅南道
 鎮川、平澤、牙山
 京城

東京、大阪、名古屋、京都、神戶、門司、下關、橫濱、若松、福岡、京城、釜山、大連

富山

光陽、長水、求禮、河東、全州

扶安、裡里、沃溝、井邑

東京、大阪、奈良、山梨、支那

金堤、全州、益山、韓山、太田、金泉、大邱

井邑、木浦、群山、潭陽、全州、高敞、扶安、長城、金堤、蜆島、泗川、珍島、莞島、海南、海州、元山、麗水、釜山

朝鮮の市場經濟

二九八

忠清南道

大田市場

卸賣は大部分懸賣、仕拂期限二市日の間とし小賣は現金取引

問屋仲買 小賣共

四四〇

〔百圓未満月分乃至五分 百圓以上三分乃至四分〕

論山市場

出場商人平均五〇〇

普通月 五分

江景市場

出場商人平均八〇〇

普通月 一分

天安市場

懸賣期限は三十日間とし利息一分二厘を徴する慣習あり

出場商人平均二〇九

月三分乃至六分

市邊と稱し毎市日間(五日毎)に一圓に對し二錢の利息のものあり

全羅北道

全州市場

懸賣は織物商が農民に少數の懸賣をなすに止まり現金より五分乃至一割高にて通例一市乃至二市を仕拂期限とするも麻布、綿布、蓆等夏季に懸賣するものは收穫期を期限とす

問屋 仲買 小賣

二〇 二〇〇

毎市日に割當市日毎に元利金を辨濟する方法あり、利子は市日毎に一圓に對し一錢の割合にて仕拂ふも元金も辨濟するを以て一割二分の金利に當る

裡里市場

卸賣に限り三割位の懸賣あり現金取引より五分高にて支拂期限は五日又は十日間

問屋 仲買 小賣

一三〇 七五〇

年利 最高六割 最低二割五分

木浦旭魚市場

全部懸賣にして仕拂期限三日とす

仲買

一四

日歩 四錢乃至六錢

全羅南道

光州市場 光州大市 光州小市

卸小賣間に於ける懸賣は其市日の日没前若くは次回の市日に仕拂ひ小賣の懸は短期間に仕拂ふ慣例にて大體買受人の隨意とす

仲買 小賣

四五〇 五〇〇

市場貸はすべて市賦(替計)にして十圓を借りたるものは之を十市に分ち最高一圓八錢乃至一圓十錢最低一圓五錢乃至一圓六錢宛仕拂ふ

麗水邑内市場

懸賣割合約五割、仕拂期限最短翌日、最長十日、期限後は年三分の利子を附す例あり

仲買 小賣

五一〇 〇〇〇

月 最高一割二分 最低五分

第五章 市場商人	忠清南道	一五	金貸業者	三六・四三七〇	一四四三
	全羅北道	該當事項なし			
	全羅南道	七	金貸業者と稱すべき程の非ず	七六・二二〇・四七八	五、〇〇〇
	慶尙北道	二	金貸業者と稱すべき程の非ず	一五・一五、〇〇〇	?
	慶尙南道	?	金貸業者 一、市場に付 二名 一人に付 二〇〇圓乃至 五、〇〇〇圓		?
	黃海道	一九	金貸業者 牛皮賣買者	九六・一五〇、五〇〇	?
	平安南道	八	金貸業者 賣買仲介業者 飲食店	二五・二二一、〇〇〇	?

借受人は多く鮮人の屠殺業者にして貸付方法は種々あり信用貸擔保貸又は牛皮を的に無期貸付のものあり利子は月四、五歩を普通とす

多く信用貸にして期間は市日貸にして利子は長期のものあるも六箇月を出て期利子は月五歩乃至一割二歩にして最短期のもの日歩百圓に付五十錢に及ぶものあり償還は概ね良好なり

多くは信用貸にして一口四、五十圓より長きは二、三百圓とす期間は翌市日迄より利子は月三歩乃至七歩にして償還は概ね正確なり

金融組合設立せられたる爲市場に於ける資金融通漸次減少す貸付は信用貸又は擔保貸にして一箇月乃至六箇月拂又は定期拂とし利子は月三分乃至五分とす

金貸業者は普通六箇月乃至一箇年利子は二歩乃至六分又牛皮賣買者は無利子の代りに牛皮を時價より一斤に付二錢低廉にて賣渡す契約をなす

多くは擔保市日貸とす利子は其の期間日歩二十錢とす

長の承認を受けしめ、時々面職員をして視察監督を爲さしむ。大體に於て市價に比し一、二割安價なるを以て中流以下の利用多く大正十五年中賣上高七萬四千一圓とす。

大邱府公設市場 (日用品廉賣)

所在地 慶尙北道大邱府東門町十三番地ノ一

設立 大正九年九月一日

沿革 歐洲大戰後一般物價騰貴の影響を受け、大邱府に於ける物價は京釜線中最も高價を示し、

市民の生活を脅威すること大なりしより之が調節策として道地方費補助七千圓に府費二千圓を加へ、合計九千圓を以て本市場を設置せるものなり。

組織

大正九年七月二十日大邱府條例第十二號公設市場條例の下に組織經營す今其條例の要旨を摘取せば

本場ハ公衆ニ對シ日用必需品ヲ廉價ニ供給スル目的ヲ以テ設立ス、販賣スル商品ノ種類及販賣者ハ府尹之ヲ指定ス、商品ノ價格ハ府尹ノ承認ヲ受クヘキコト、商品ノ價格ハ見易キ箇所ニ揭示スルコト、販賣ハ凡テ現金取扱ノコト、府尹ハ必要ト認メタルトキハ販賣ノ指定ヲ取消スコトヲ得ルコト等にある。